

復興の花

災害直後から、多くのボランティア団体や自治体、学校、個人の皆さんの手で復旧活動が行われました。

そして今、1歩ずつ復興へと向かっています。

これらの復興の花がこれから着実に増えていきます



2 八竜小学校



2 坂本中学校



1 仮設団地



4 坂本橋 (仮橋)



3 坂本支所仮設庁舎



4 鎌瀬橋 (仮橋)



5 路線バス「坂本線」



6 さかもと館



7 さかもと復興商店街

1. 仮設団地を整備

令和2年9月に八代市市民球場仮設団地
が、10月に八代市古閑中町仮設団地が完成し、
計40戸の応急仮設住宅が整備されました。

2. 八竜小学校、坂本中学校での授業再開

災害後、日奈久小学校や日奈久中学校などに
学習の場を移していた児童・生徒たちが、
令和2年12月14日、八竜小学校・坂本中学校
の校舎での授業再開により、慣れ親しんだ教
室に戻りました。

3. 市役所坂本支所仮設庁舎 業務開始

市役所坂本支所の仮設庁舎が坂本の里一灯
苑南側に完成し、3月15日に業務を開始しま
した。

4. 坂本橋・鎌瀬橋の仮橋完成

流失した坂本橋と鎌瀬橋の仮橋が5月28日
に供用開始となりました。仮橋には残った橋
脚の一部が使用されています。

VOICE



〈坂本橋仮橋利用者〉
坂本郵便局長
ふくだ 深田 啓介さん

業務で毎日通う百済来郵便局まで遠
回りせずに行けるようになり、時間短
縮で便利になりました。遠回りしてお
越しになっていたお客様からも「近く
なって助かる」との声を聞きます。

5. 路線バス「坂本線」の通常運行再開

被災以降、八代市役所・通拝間の折り返し
運行となっていた路線バス「坂本線」が、6月
1日から坂本駅前までの運行を再開しました。

6. さかもと館 オープン

被災した八代市広域交流センターさかもと
館が7月3日にオープンします。レストラン
は休業して物産販売などを行う予定です。

7. さかもと復興商店街 オープン

被災した事業者の早期事業再開を目的に、
さかもと復興商店街が八代市広域交流セン
ターさかもと館隣に完成し、7月3日にオー
プンします。同商店街には、飲食店や小売業
者などが入居予定です。



坂本住民自治協議会
会長
なかにし 谷口 邦昭さん
平成30年に、会長
に就任。八代市坂本町
復興計画策定委員を務
めるなど、被災後の坂
本町のまちづくりを注
意している。

被災当時、自宅は幸い被災を免れました
が、電気がない、情報が入らない状況でし
た。協議会のメンバーとも連絡がとれない
まま、1人で各所を回り、被害状況の確認
と記録を行う日々でした。

8月に入り、坂本町の8つの地域全てで
地域懇談会を開催しました。被害状況や要
望、意見を聞き取り、取りまとめたものを
要望書として市に提出しました。

坂本地区は被災する前から、みんな支え
あって暮らしてきました。それはこれから
も変わりません。再び坂本町にたくさん
の人が訪れるよう、みんなで楽しいイベン
トを企画していきたいと思えます。まずは、
今できることから。坂本町のまちおこしの
資源は無量大です。



5月14日 復興の思いを込めた看板を坂本住民自治協議会が設置。八竜小学校の児童と坂本中学校の生徒がデザイン・作成しました。(国道219号沿い学校入口付近)

— 令和2年7月豪雨災害から1年 —

咲かせよう 復興の花・笑顔の花

令和2年7月3日夜から翌日未明にかけての
これまでに経験したことのないような激しい
雨。球磨川ははん濫し、流域は広い範囲にわたっ
て甚大な被害を受けました。

令和2年7月の豪雨は本市の坂本町や山間部
の泉町などに大きな爪あとを残しました。特に
坂本町では、死者4人、重傷者2人、軽傷者19
人の人的被害と行方不明者が1人。住家被害は
全壊の159件を含め、計454件にも上りま
した。ライフラインは寸断され、橋の流失や道
路が通行不能になるなど、周辺住民の生活は一
変。避難をよぎなくされた人は最大4カ月にお
たる避難所生活を送ることとなり、7月当初の
避難者数は173世帯、313人でした。泉町
では道路寸断により一時239人が孤立集落と
なり、うち6人が板木俣口集会所で避難生活を
送りました。また、日奈久校区や二見校区で家
屋損壊や土砂崩れ、千丁町で冠水による通行止
め、東陽町で土砂崩れや落石などの被害があり、
市内一帯で大きな被害を受けました。

坂本町の復旧活動は長期間にわたって行わ
れ、猛暑の中、土砂が流入した家の片づけを行
うため、自衛隊や市消防団、各団体など多くの
協力のもと進められました。7月7日には、八
代市災害ボランティアセンター(現八代市復
興ボランティアセンター)が開設され、延べ
8千465人(令和3年6月14日現在)のボラ
ンティアが活動しました。また、義援金や、寄
附金、支援物資、自治体による職員派遣など多
くの支援をいただいています。

1年が経ち、1歩ずつ前へと進む坂本町。今
年2月に策定された「八代市坂本町復興計画」
みんなで取り戻す 生き生き笑顔のさかもと」
に基づき、まちづくりを進めていきます。

笑顔の花

1年前の豪雨災害は、坂本町そして八代市の人々の笑顔を奪いました。再び、それぞれの場所でみんなの笑顔の花が咲きますように。「笑顔の花」の3つの芽を紹介します

7月3日(土) オープン
さかもと復興商店街で再出発

INTERVIEW



一般社団法人さかもと(食処さかもと鮎やな)
代表理事 松嶋 一実さん

坂本町西部生まれ。仕事で単身赴任を経て、平成16年に坂本町に帰郷。定年退職後、平成26年に事務局長として坂本住民自治協議会の立ち上げに携わる。平成29年6月、同協議会内に一般社団法人を設立し、道の駅坂本の敷地に「食処さかもと鮎やな」を開業。令和2年7月豪雨災害で同店が大きな被害を受けた。

店の被害状況を確認しに行くことができたのは、災害から4日後でした。道路が寸断されていたため、唯一通ることができた林道を通って、やっとの思いで店にたどり着きました。店はめちゃくちゃ。信じられない光景でした。天井まで浸水し、大容量の冷蔵庫や棚などが調理台の上に積み重なり、テーブルや椅子は流され、土砂が大量に流入していて無残な状態でした。「もうだめだ」と思いました。被災前までは、九州各県から多くの人が鮎料理を求めて訪れていたのに、まさかこのようになるとは夢にも思いませんでした。ボランティアなど多くの人の協力で店の泥かきをする毎日。本当に助かりました。先行きが見えない中、仮設商店街が建設されるので入居しないかとの話がありました。

マイナスからのスタートで設備の購入費の工面や採算が合うのか、など役員で何度も議論を重ね、閉店も考えました。それでも、町のよさを知ってもらい坂本町に住む人を増やしたい、スタッフの働く楽しみの場を守りたいとの思いが強く、「このままやめるのは簡単だが、なんとか前に進もう」と出店を決めました。スタッフの事前研修会も開催し、まもなくオープンを迎えますが、不安よりやる気と期待の方が大きいです。今は被災された方々が安心して暮らせるまちづくりの実現が一番の願いです。そして、これから多くの人に坂本町を訪れていただき、町のよさを知ってもらい、再びにぎわう坂本町をみんなで作り上げていきたいと思えます。



食処さかもと鮎やなスタッフの皆さん



人気メニューの「鮎づくし」



鮎の塩焼き

2 元気に学ぶ 子どもたち



坂本中学校の生徒会の皆さん
左から 遠山 望晴さん(3年)、山本 萌萌花さん(3年)、村山 斗哉さん(2年)、古閑 美麗さん(2年)

被災後8月3日からは日奈久中学校へ通うことができ、新しい友達と体育と一緒に行動など楽しく過ごせました。昨年12月14日から坂本中学校で再び授業を受けることができるようになり、我が家のような学び舎に安心しました。災害が起こる前よりも坂本町に興味を持つようになり、きれいな山や川、赤い橋、アユといった坂本町の特徴を大切にしたいと思っています。そしてまた、みんなとくま川ワイワイパークなどでたくさん遊べるようになり、坂本町がこれまで以上ににぎわうといいなと思います。

3 八代市地域 支え合いセンター

被災者の生活を細やかに支援 八代市地域支え合いセンターは、豪雨災害で被災された世帯を訪問し、見守りや生活に関する困りごとの聞き取り、さまざまな生活支援などを行っています。設立された当初は、在宅や仮設団地、みなし仮設住宅合わせて約450世帯を回っていました。主に所在確認や私たちの支援活動の説明、生活再建に向けた各種補助制度の案内などを行う中で、多くの人が、被災した当時の体験を熱心に話してくださいました。さまざまな思いをお聞きしながら、被災者お一人お一人が望まれる支援を行うよう心がけられました。

災害から半年経った頃に、離れ離れになられた被災者の皆さんの再会の場として、「みんなdeカフェ」を八千把校区や太田郷校区で開催しました。



ピンク色をシンボルカラーにして活動する生活支援相談員の皆さん

住まいの相談会に参加する人や家を再建した人もみられるようになりました。それぞれの場所での日常生活を送りながら、生活再建に向けて取り組まれているように思います。活動の中で、大変なこともあります。当時は涙を流しながら話をしてくださった人から「元氣になりました」とお礼の電話をいただくなど、うれしいこともあります。これから被災者の変化していく「今」のニーズにアンテナを向けてスタッフみんなで支援を続けていきます。

INTERVIEW



八代市地域支え合いセンター 主任生活支援相談員
ほんみょう のりこ 本明 宣理子さん

平成31年4月、八代市社会福祉協議会支所勤務から本所に配属。令和2年7月豪雨災害直後から、被災者のニーズの聞き取りを担当。昨年10月に同協議会内に開設された「八代市地域支え合いセンター」の主任生活支援相談員として、8人のスタッフとともに被災者の見守りや生活支援を行う。

これからの「坂本町」

今後、計画的に復興事業が進められていきます。

7年度	6年度	5年度	4年度	令和3年度
坂本支所再建(目標)	坂本コミュニティセンター再建(目標)	林道復旧事業完了(目標)	災害公営住宅 建築工事(目標)	11月 坂本ふるさとまつり開催(以後継続)
			災害公営住宅 建築完了(目標)	12月 公費解体完了
		災害公営住宅 入居開始(目標)	市道復旧事業完了(目標)	

坂本町の復興はまだまだ遠い道のりかもしれませんが。けれども確実に復興と笑顔の花が咲きはじめています。坂本町のスローガン「生き生き笑顔の坂本」を合い言葉に花を咲かせましょう。〈特集 咲かせよう復興の花・笑顔の花 終〉